



DXを実現するためのIT構想・企画 ～まずは、業務・プロセスの可視化から始めよう！～

株式会社アイ・ティ・イノベーション
能登原 伸二

1. 今の時代、何が起きているのか	P. 3
2. IT構想・企画の必要性	P. 8
3. IT構想・企画とは	P.13
4. IT構想・企画の主要な観点	P.17

1. 今の時代、何が起きているのか

① コロナを契機とした働き方



- ✓ テレワークの広がり
- ✓ Web会議、チャットでのコミュニケーション
- ✓ 遠隔地で就業

② デジタル化とDXによる変革



- ✓ 新ビジネスの創出
- ✓ 抜本的な業務改革
- ✓ 2025年の崖問題

組織
プロジェクト
個人
の在り方？

③ 平等で公平な社会の実現



- ✓ ジェンダー平等
- ✓ コンプライアンス遵守
- ✓ 心理的安全性の高い組織

④ 持続可能な世界の実現



- ✓ SDG s
- ✓ 気候温暖化対策

デジタルトランスフォーメーション（DX）とは？

ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で
より良い方向に変化させる

2004年スウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が提唱

<経済産業省から提示されたDXの定義>

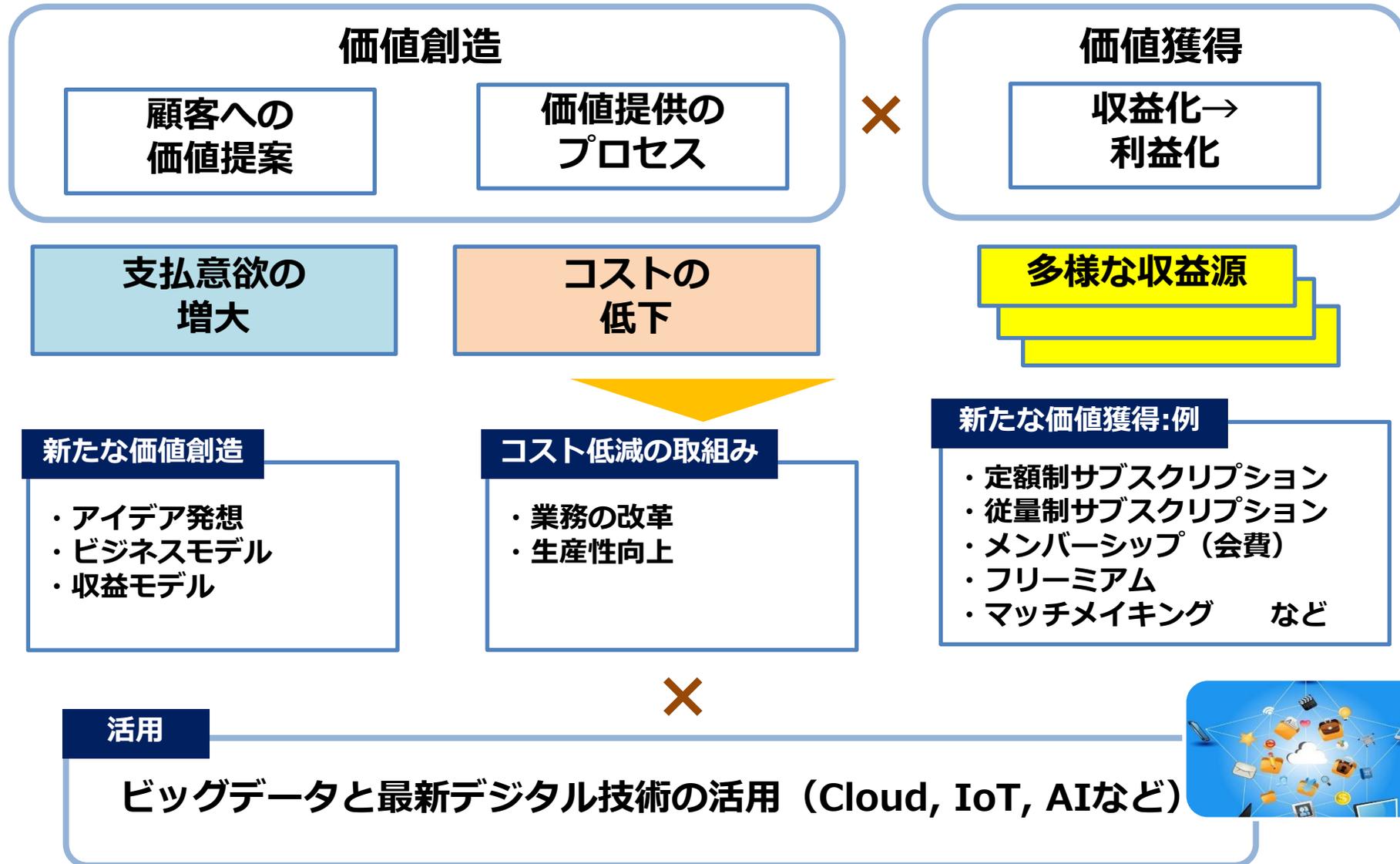
「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを元に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」

活用

- ①データ
- ②デジタル技術

変革

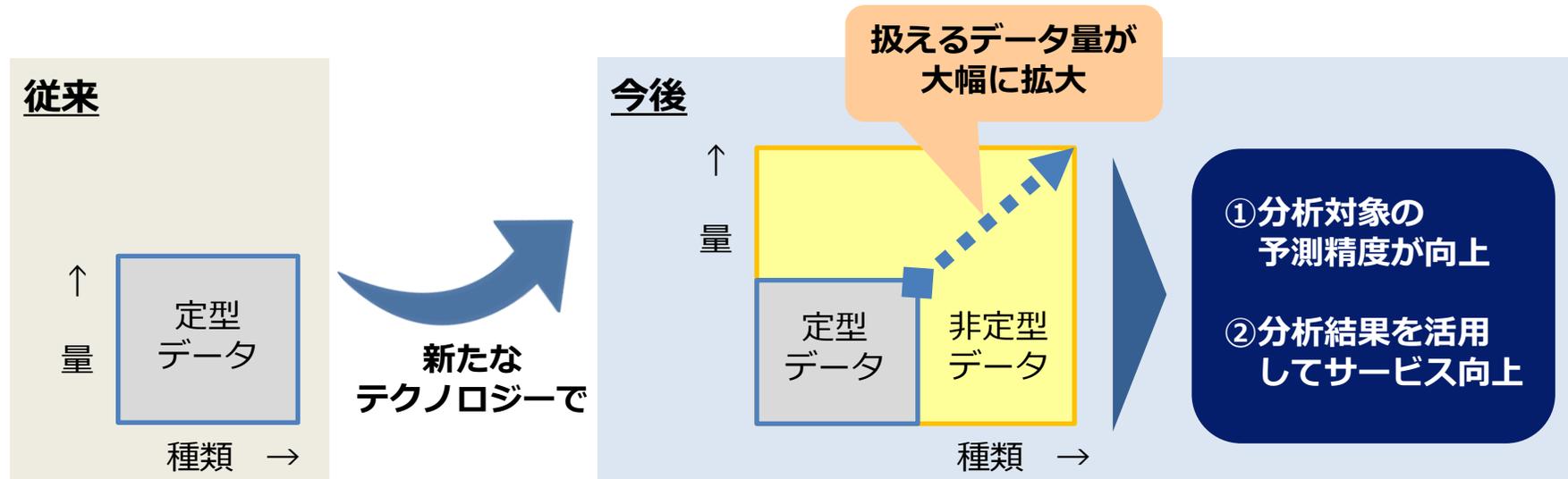
- ①製品やサービス、ビジネスモデル
- ②業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土



※「収益多様性の戦略」既存事業を変えるマネタイズの新しいロジック：川上昌直著

Cloud、IoT、AIなどによりビッグデータの分析が可能

- ✓ 定型データだけでなく、非定型データ（フリーテキスト、映像、音声など）も収集できることにより、**様々な種類のデータ、膨大なデータ**を収集、蓄積できる
- ✓ よりスピーディーに膨大なデータを解析・分析できるため、**高い精度で予測**ができる

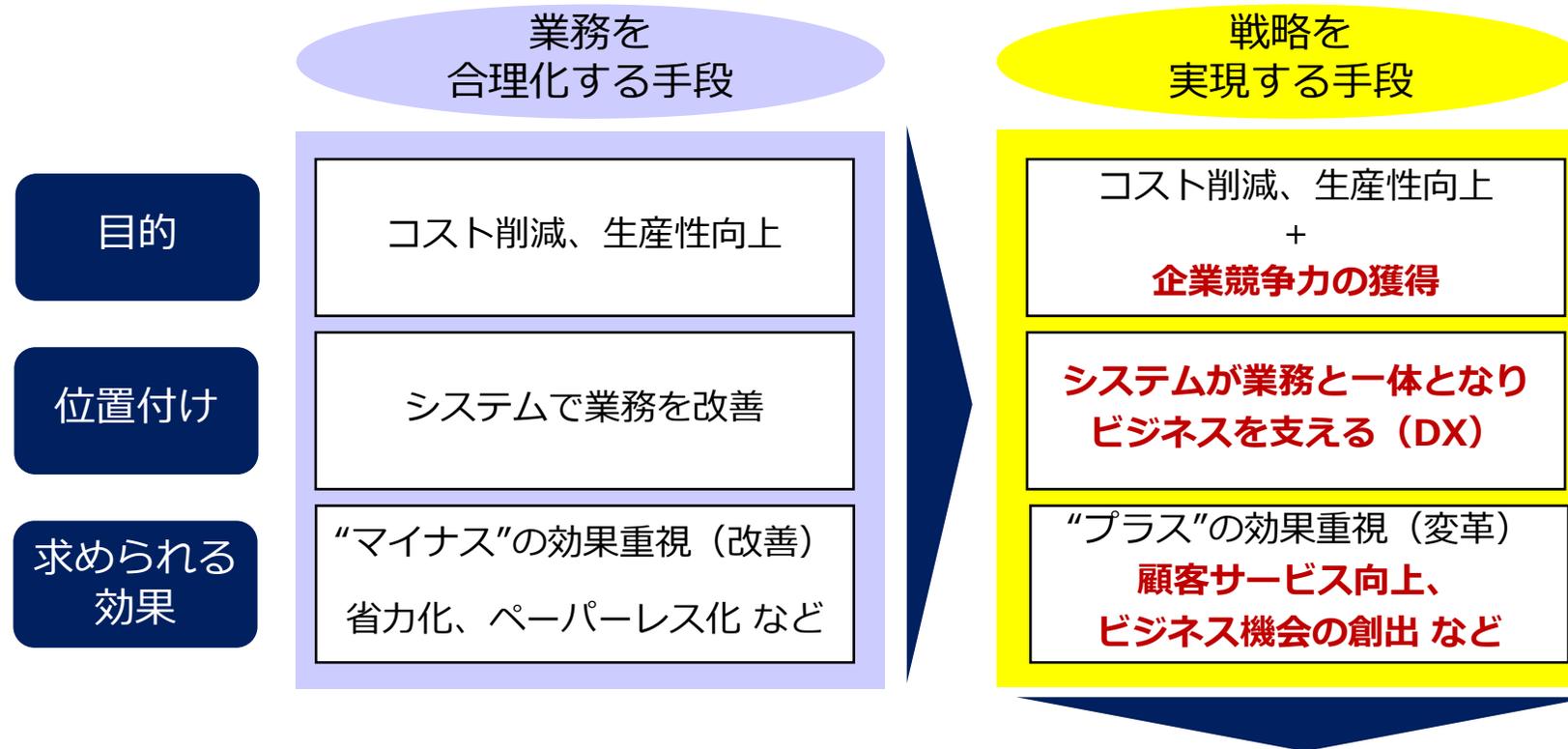


デジタル技術を活用し、**競争優位**を創り出し、**利益**を増大

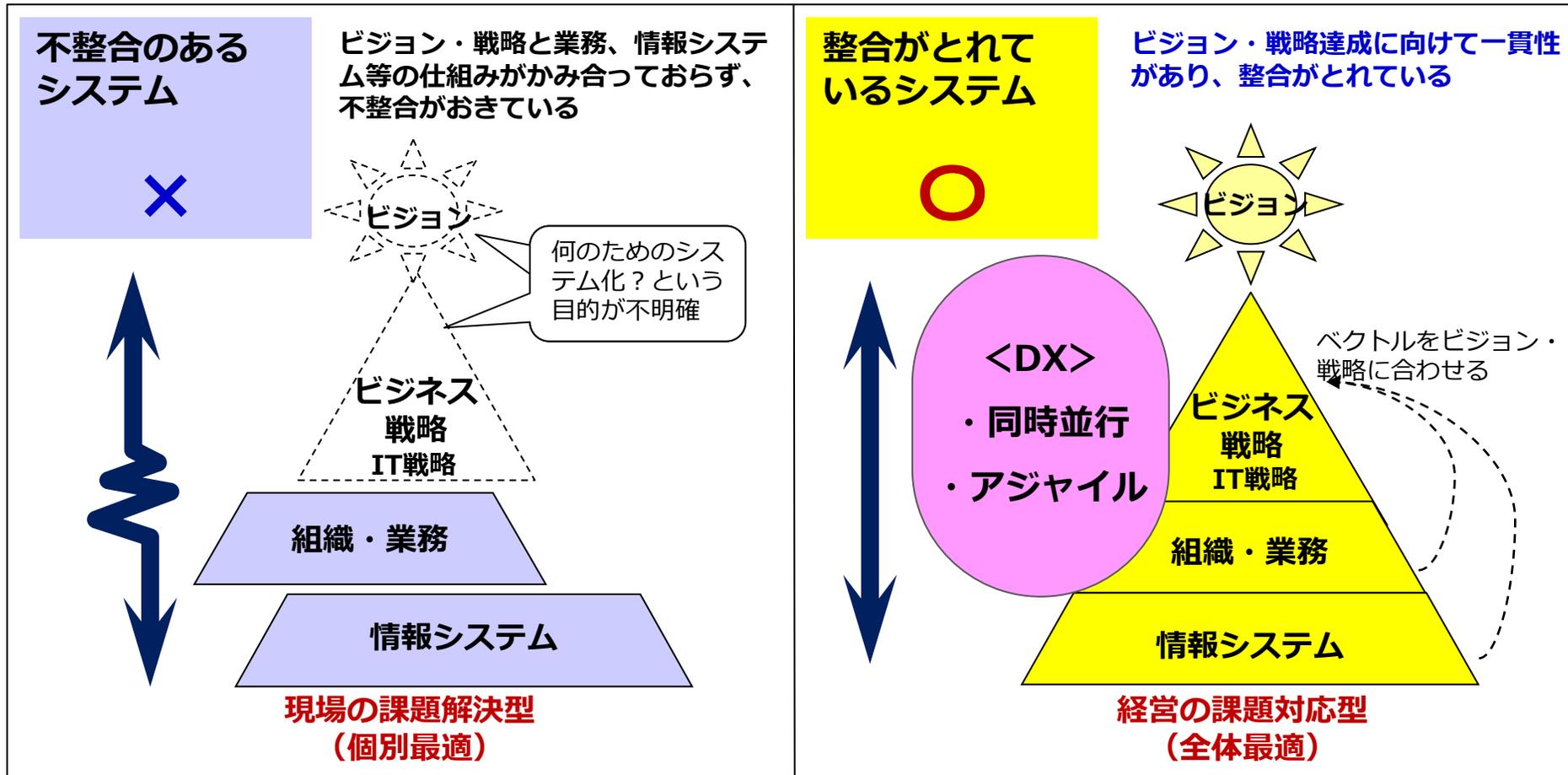
2. IT構想・企画の必要性

情報システムの重要性の変化

情報システムは、社会や企業において利用される範囲が拡大し、個別の業務合理化から、DXに代表されるような戦略的かつ重要なポジションを占めるようになってきた。

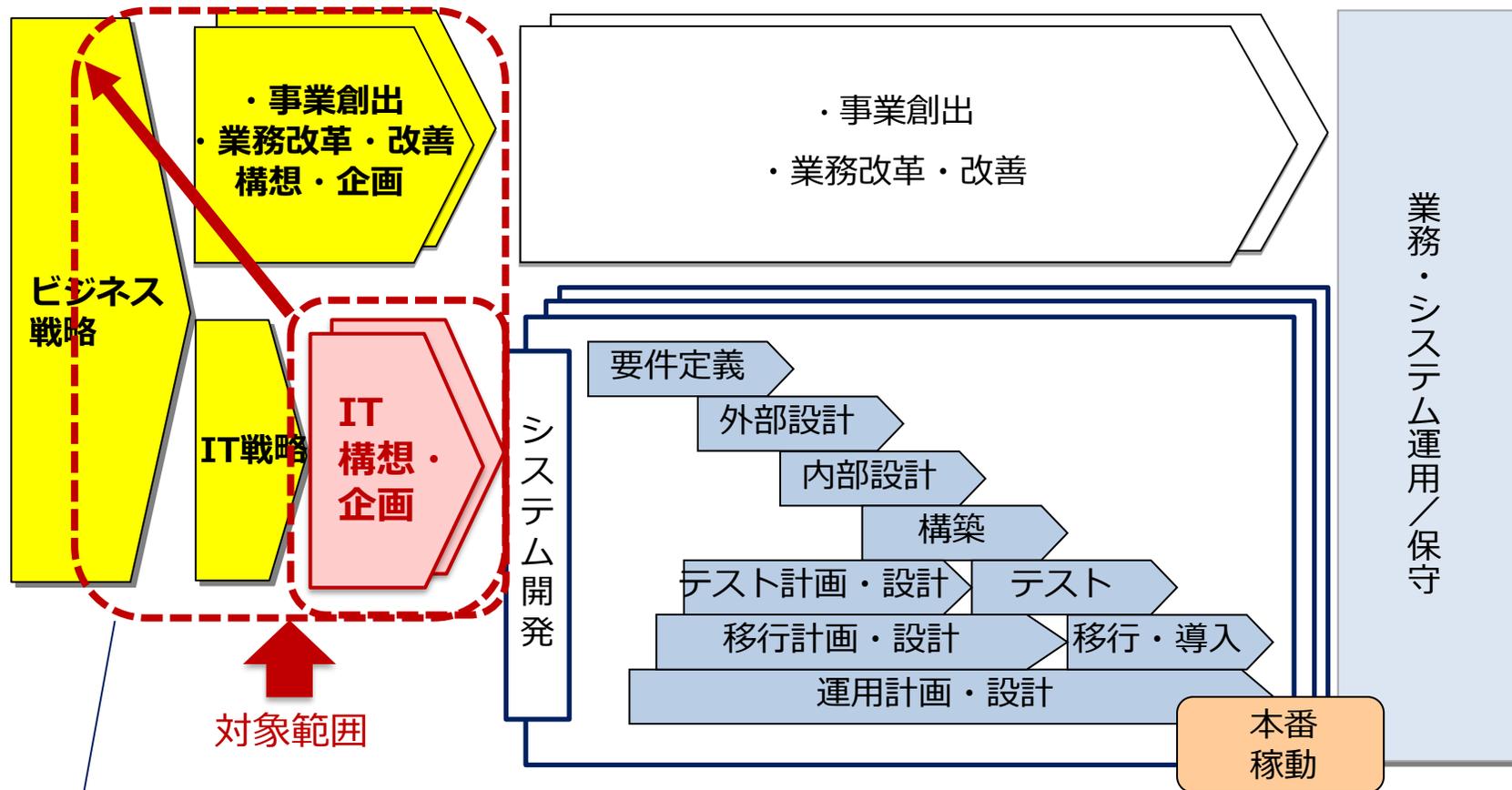


戦略を実現する情報システムを手に入れるためには、「ビジョン・戦略」「組織・役割分担」「業務プロセス」「情報システム」をセットで検討し、ビジョン・戦略の実現や顧客への価値提供へ向けた一連の事業活動にマッチした仕組みを十分吟味する事が重要。



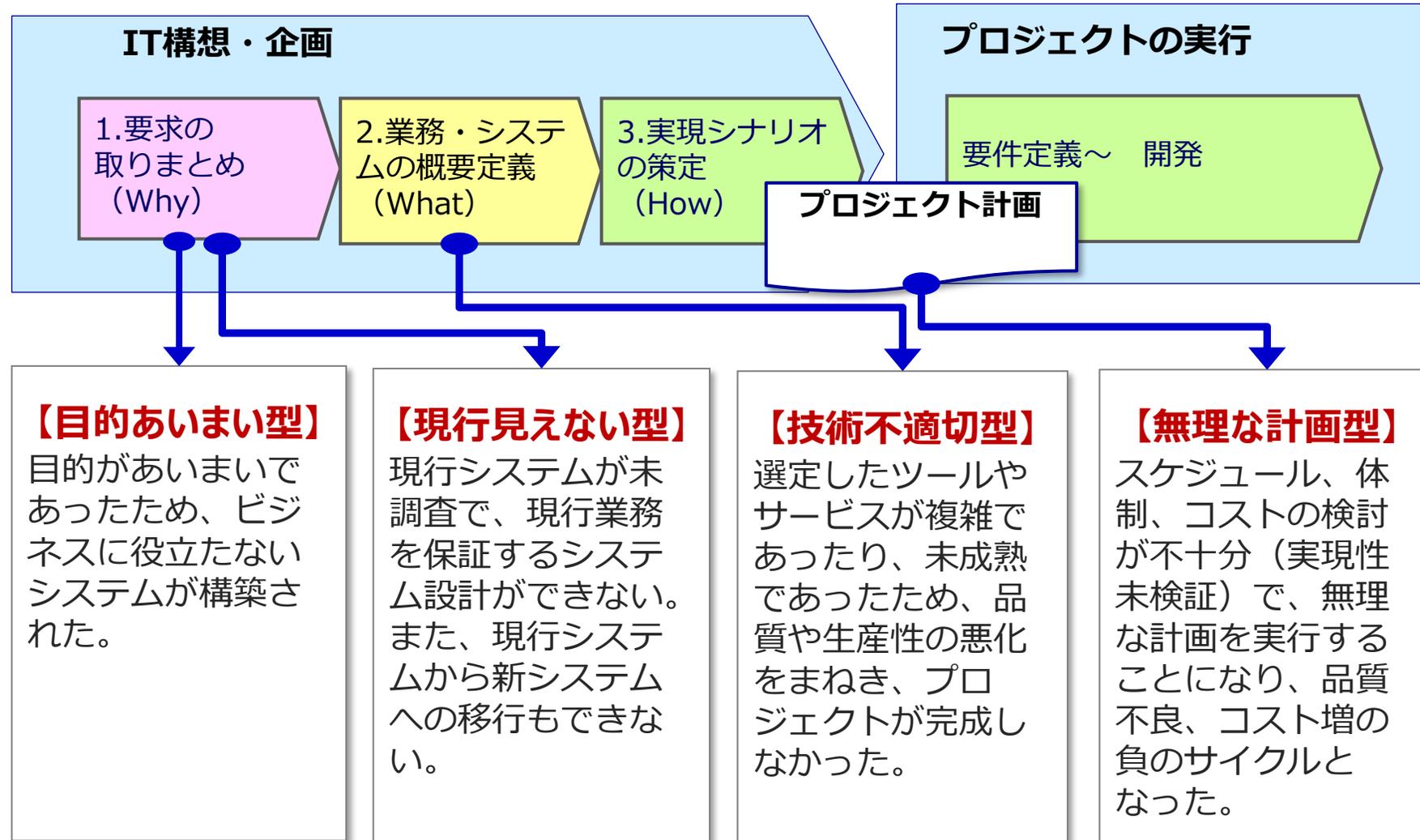
事業としてののりたいたい姿、ありたい姿およびその実現に必要な要求を
IT構想・企画で明確にする

プロジェクトの特性によって、プロジェクトのスコープも変化する。



- ✓ 情報システムは、ビジネス戦略・IT戦略と適合していなければならない。
- ✓ DXプロジェクトでは、情報システムの構想・企画に留まらないために、検討のスコープが広がる。

IT構想・企画を適切に実施しないことによって、プロジェクトの失敗の大きな原因になる。



3. IT構想・企画とは

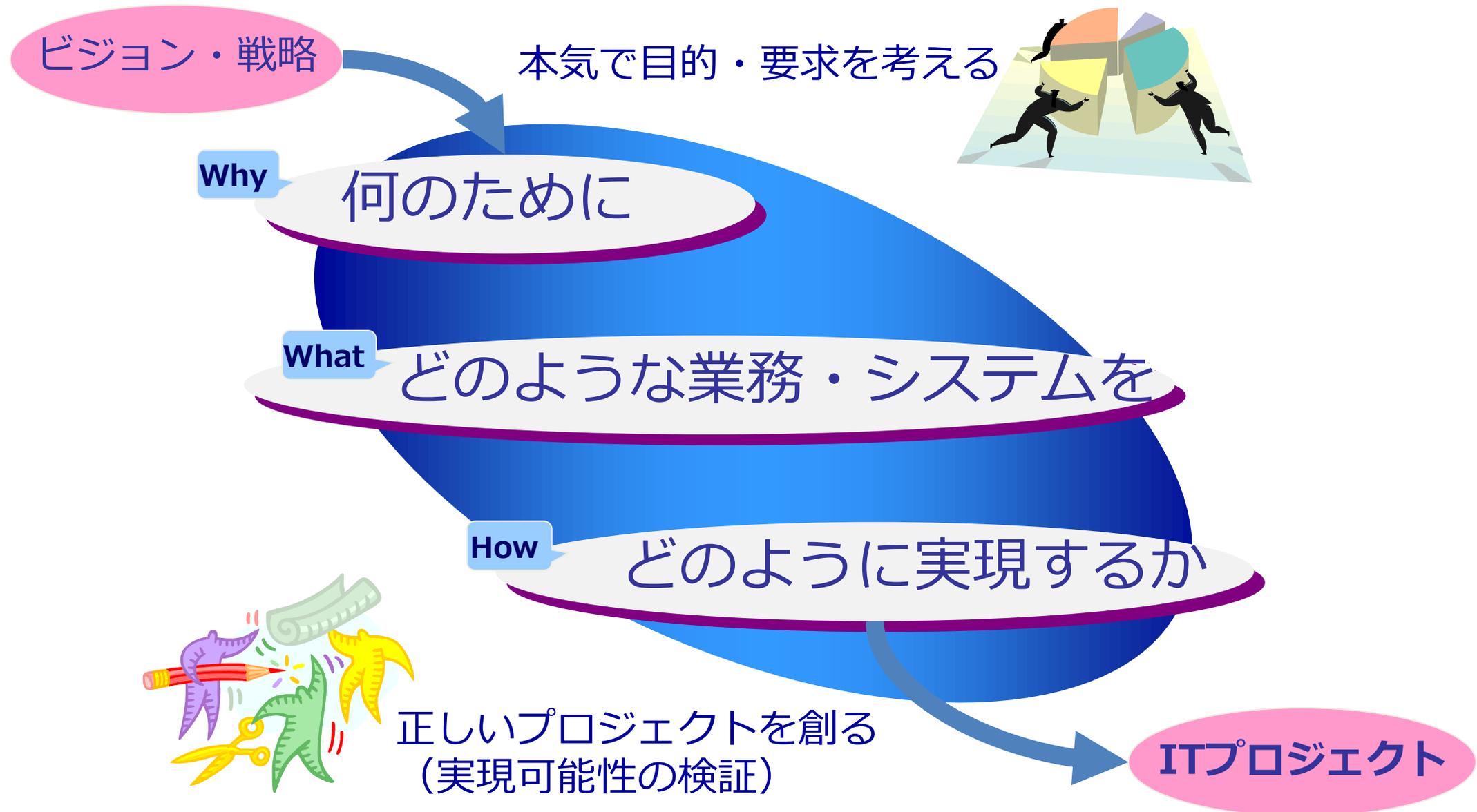
IT構想・企画とは？

IT構想・企画とは、「**ビジネス戦略の達成に貢献する業務と情報システムの姿を明確化し、実現シナリオを策定する**」活動



IT構想・企画の重要ポイント

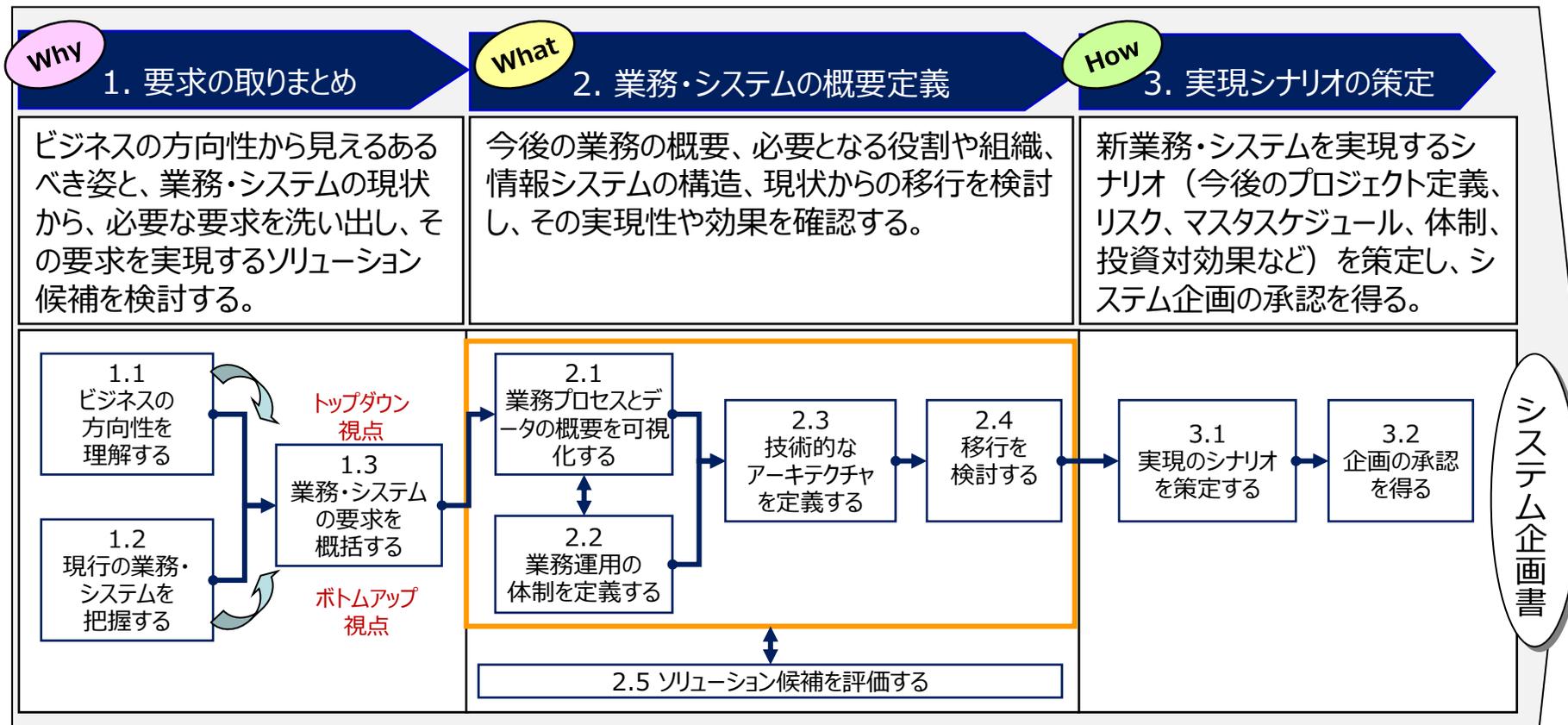
- ✓ ビジネス上の意思決定を行うトップ・マネジメントの理解と支援が不可欠。
- ✓ 多くの**ステークホルダー**を巻き込み、**要求**を正しく理解する必要がある。
- ✓ ステークホルダーがコミュニケーションをとりながら意思決定にいたるというプロセスが大事。
- ✓ ステークホルダーが参加意識を持ち、IT構想・企画に対する理解を深め、**ディスカッションを通じて合意を形成**していくことが重要。



IT構想・企画は、業務をとりまく環境と現状を理解し、情報システムをどのように活用できるか検討を行い、実現化に向けての計画を立案すること。

※ 「何のために (Why) 」 「どのような業務・システムを (What) 」 「どのように実現するか (How) 」 を明確にする。

IT構想・企画の全体的な流れは、大きく3つのステップから構成される。



4. IT構想・企画の主要な観点

観点①

企業価値の向上と現場の課題解決を両立する、**トップダウンとボトムアップ**2つの視点からの**要求整理と体系化**

観点②

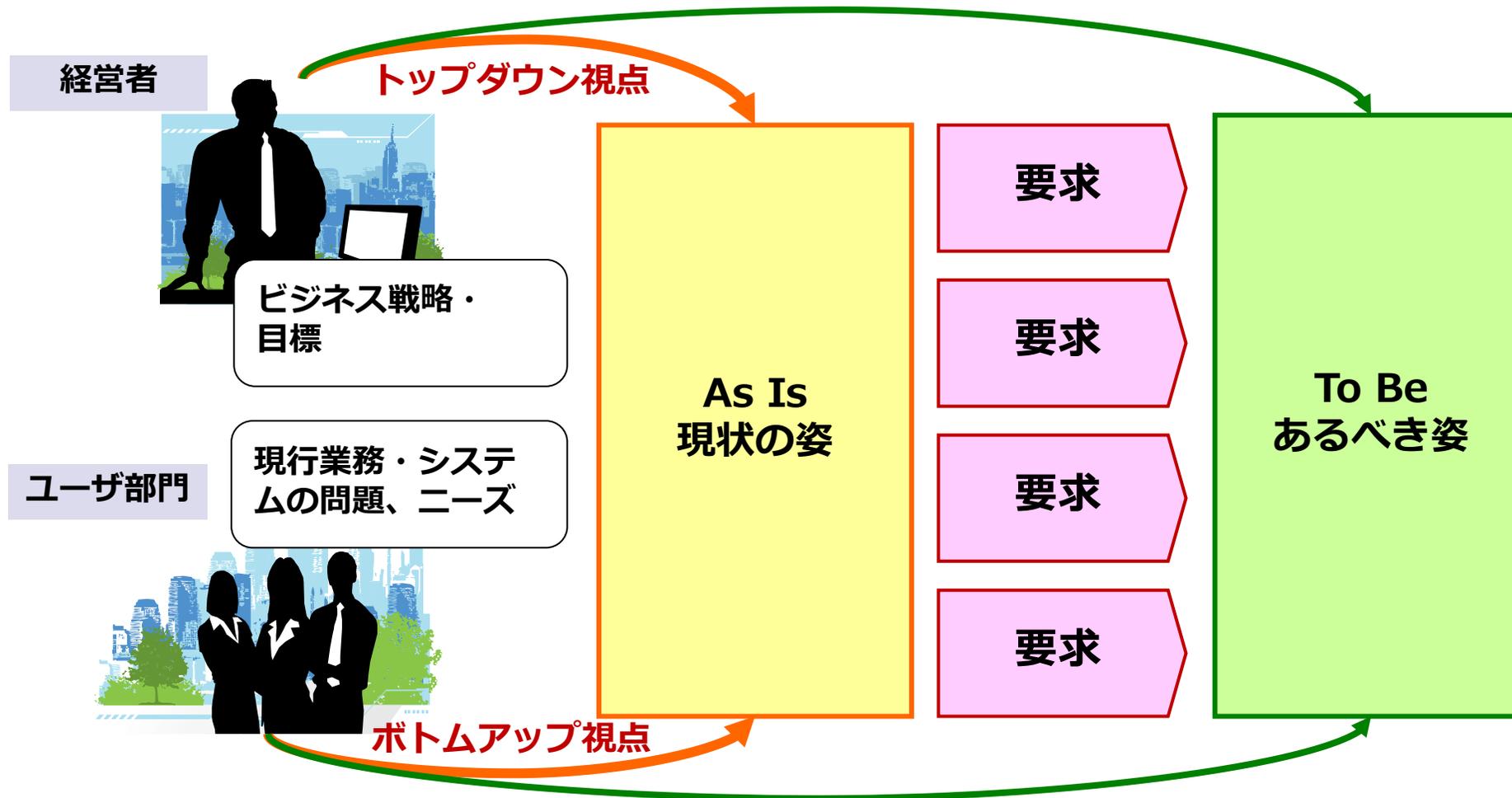
無駄なIT投資に繋がりがやすい「システム化ありき」の考え方から脱却するために、**"要求"と"ソリューション"**を段階的に検討する手法

観点③

観点の①、②を実行する上でも、業務とシステムの調査を実施して、**可視化を図り、課題・問題を把握**することが必要

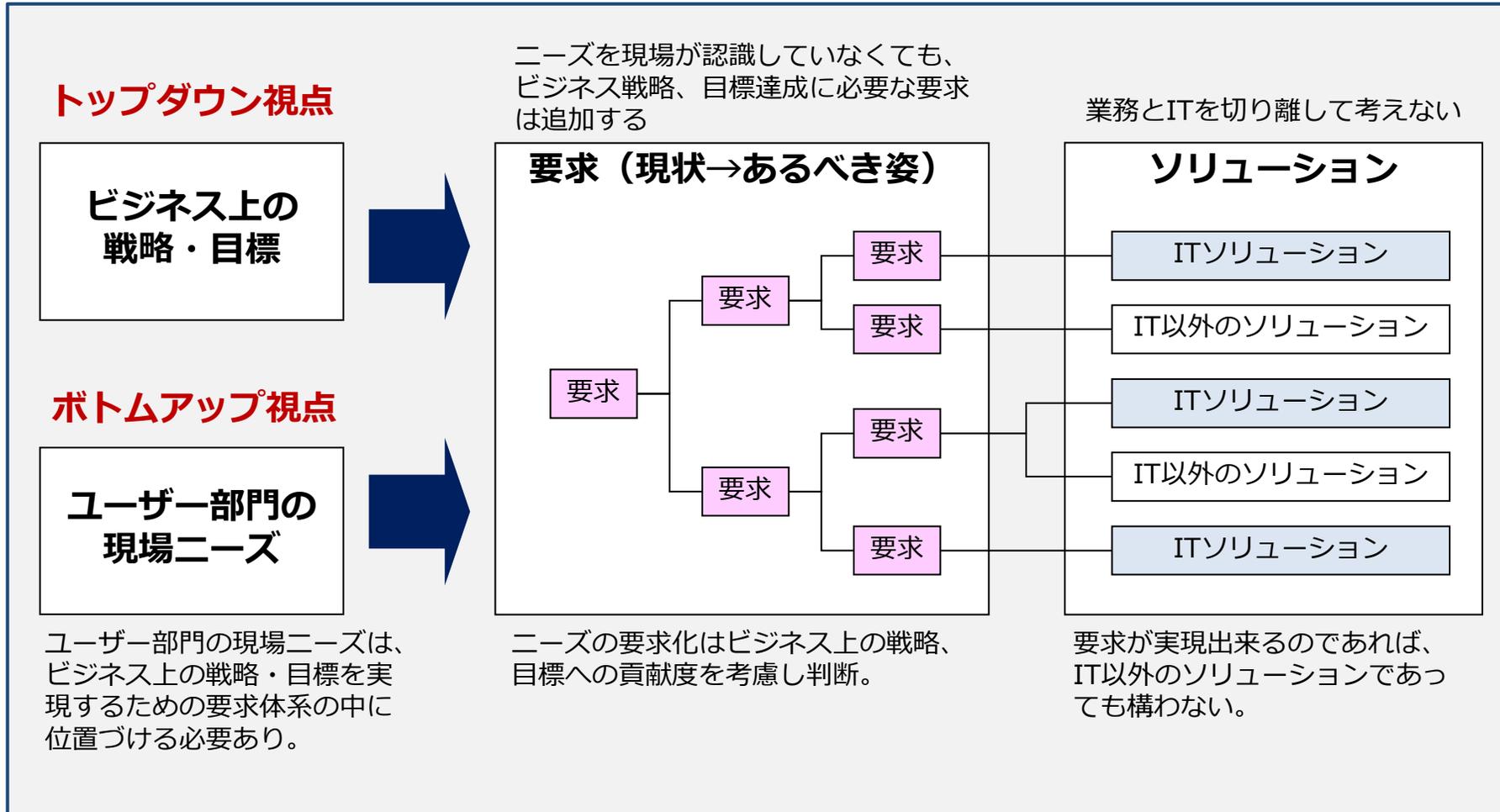
観点① – トップダウンとボトムアップ視点からの要求分析手法

ボトムアップ観点でのユーザー部門の現場ニーズをそのまま次期システムに求められる要求とするのではなく、トップダウン観点によるビジネス戦略・目標からあるべき姿を検討することで「自社ビジネスで真に必要となる要求」を整理する。



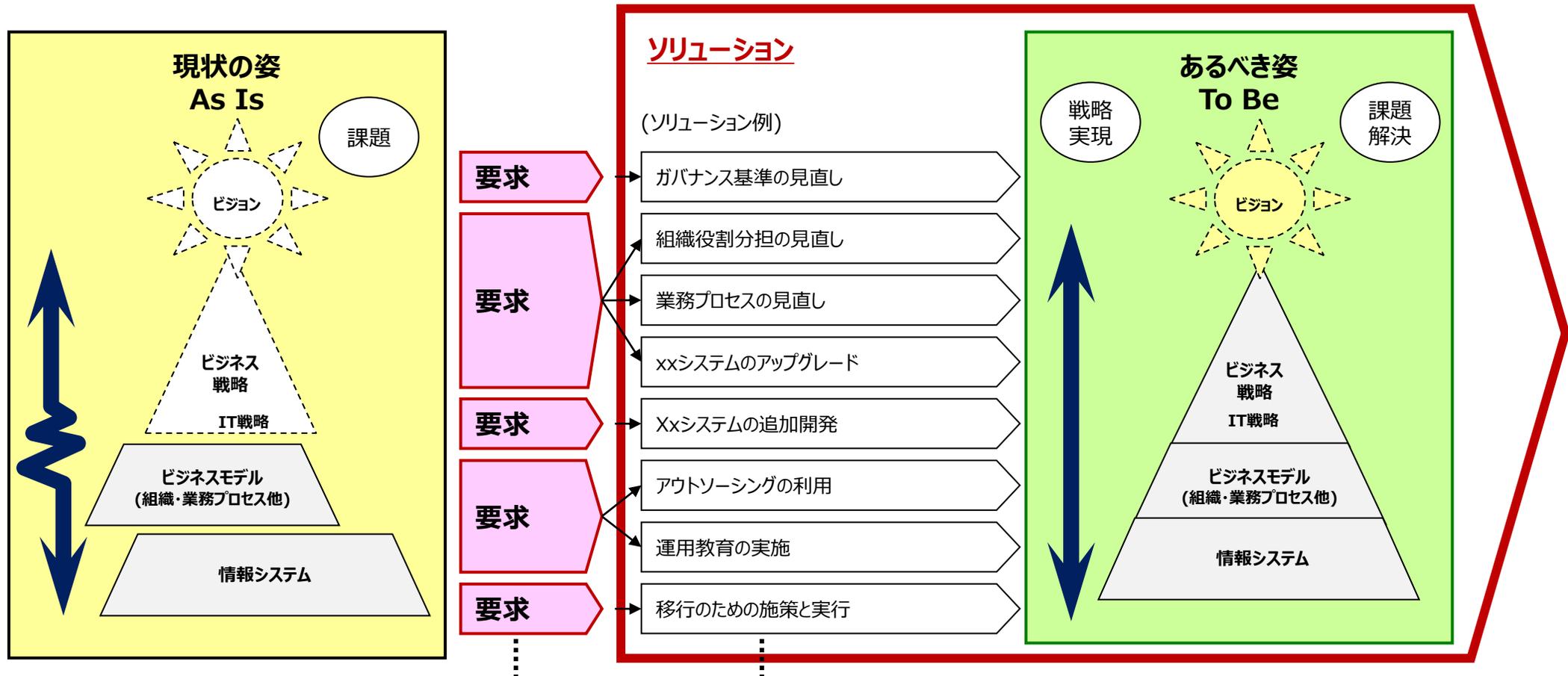
観点② – 要求とソリューションの段階的検討

達成手段（ソリューション＝システム機能の開発など）に捉われず、As IsとTo Beとのギャップを埋める「条件」や「能力」を要求として整理した上でソリューションを検討することで、IT以外の達成手段を導き出すことができるようになる。



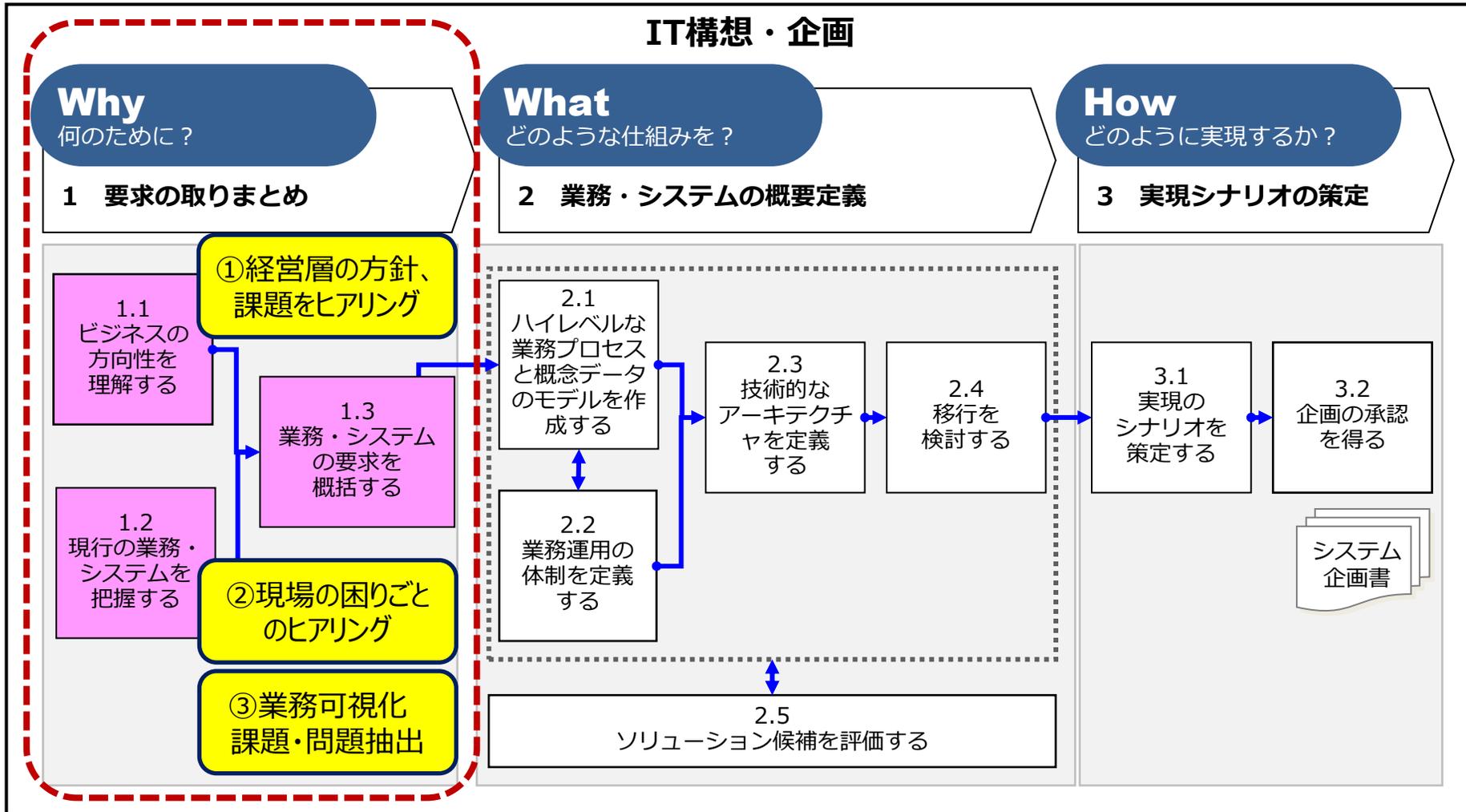
観点② – 要求とソリューションの段階的検討

ビジネス上の戦略・目標（トップダウン要求）に整合させる形で、ユーザー部門の現場ニーズ（ボトムアップ要求）、IT・非ITのソリューションをバランスよく整理する事により、全社の仕組みのベクトルを会社目標実現に集中させる事を目指す。

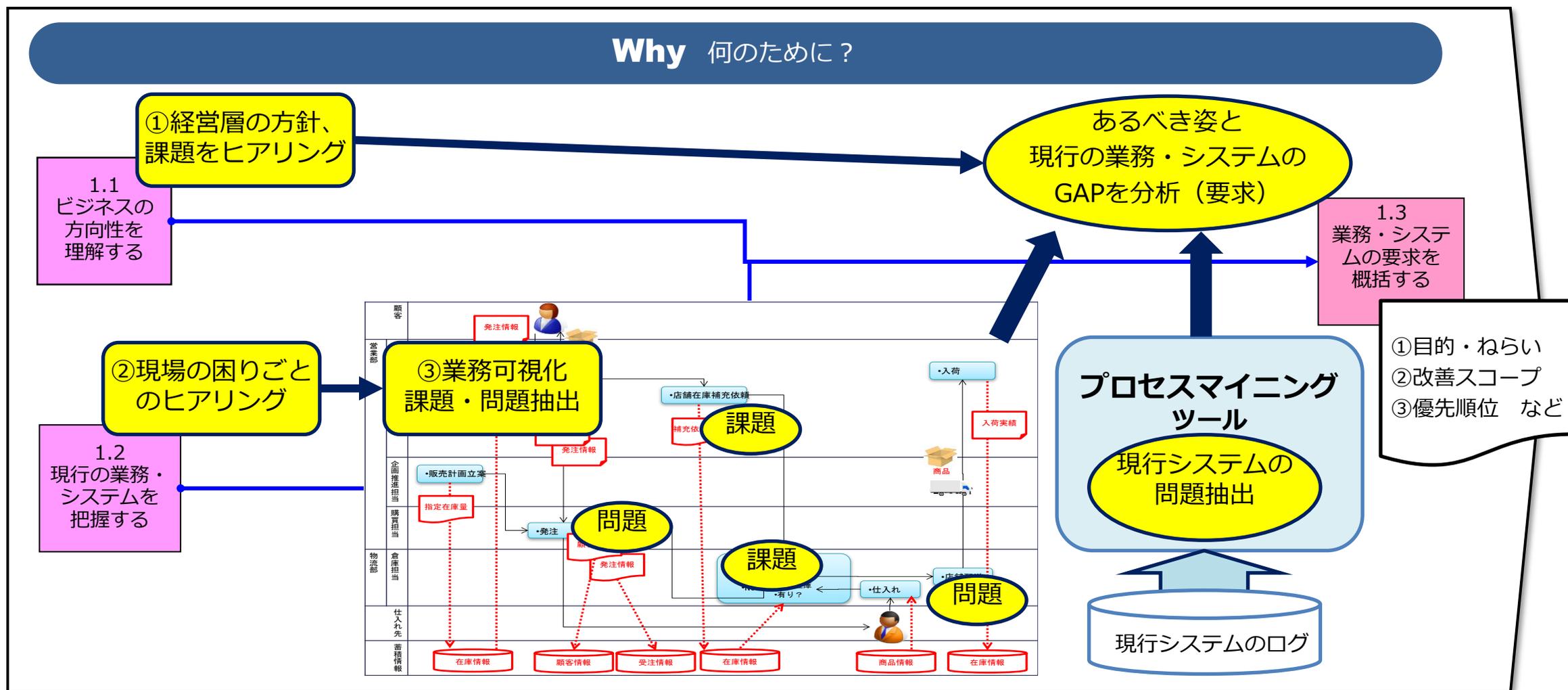


観点③ – 業務とシステムの可視化

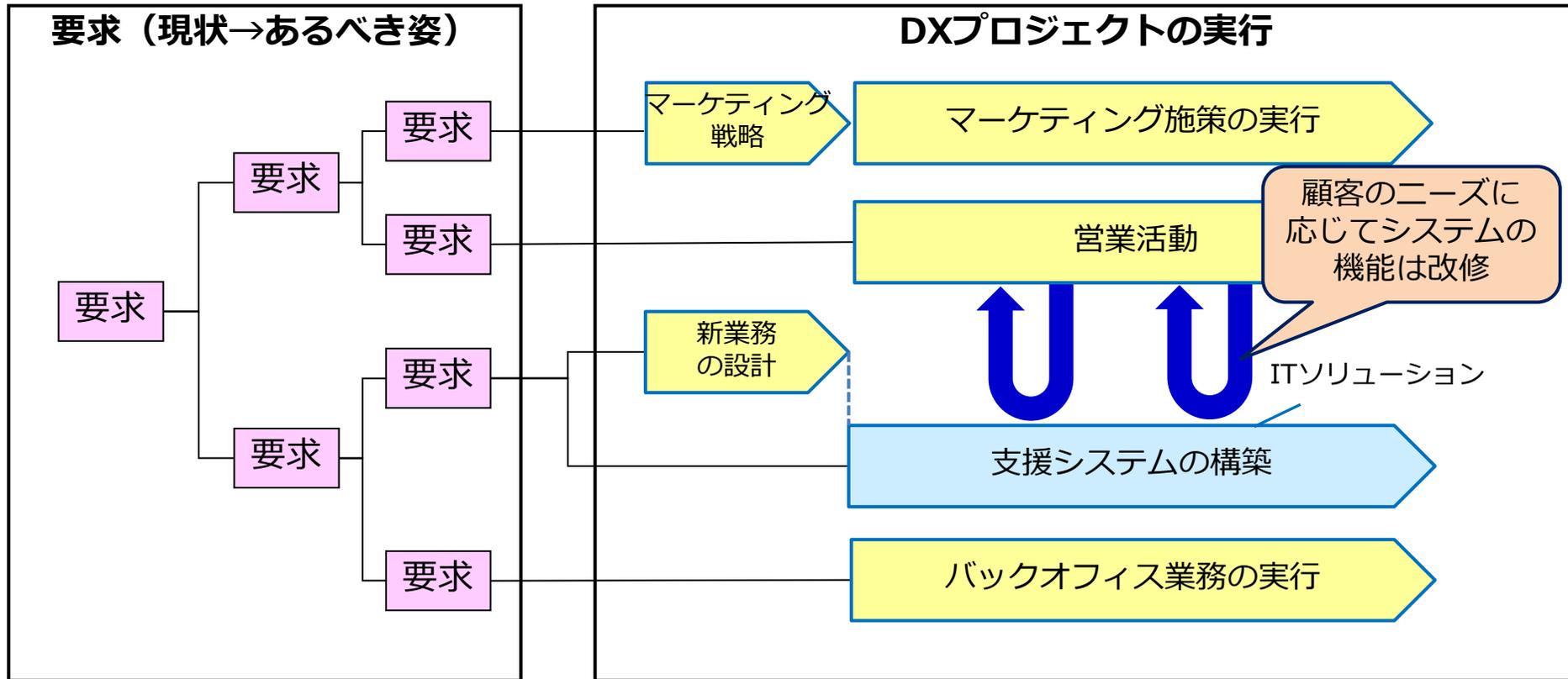
Why、What、Howの手順で課題・問題を洗い出してから、業務改革、システム開発の仕方までを検討するが、まずはWhyのフェーズの現行の業務とシステムの可視化から始める。



現状の業務とシステムを可視化して課題・問題を洗い出すと共に、経営層の方針・課題から導いたあるべき姿とのGAPを考慮して、改善スコープを検討する。



DXプロジェクトは、ITソリューションのみに留まらず、様々なソリューションを**並行的に**、**アジャイル**に実施する**プログラム**である。よって、状況の変化を常に監視し、振り返り、対策を打って行かなければならない。



A blue-tinted photograph of three business professionals in a meeting, looking at a laptop. The image is overlaid with a complex digital network of white lines, hexagons, and icons. The icons include three human figures, a Wi-Fi symbol, an envelope, and various alphanumeric strings like '141380', '141687', 'E04F06', 'F05492', and 'E11110'.

ご清聴ありがとうございました。

Thank you !



株式会社アイ・ティ・イノベーション